

SNS 上の誹謗中傷から学ぶ、応援されるアスリートのあり方

岩城 慎

・要旨

本論文では、バドミントン競技者として選手の苦悩を目の当たりにしてきた経験から、バドミントン界の具体的な事例を基に誹謗中傷の傾向を整理し、「応援されるアスリート」の条件を考察した。

まず、誹謗中傷と正当な批判を定義する。批判が技術や戦術に基づく客観的な評価であるのに対し、誹謗中傷は人格否定や外見への攻撃、根拠のないデマの拡散を指す。バドミントン特有の傾向として、ダブルスのパートナーに対する片方への攻撃や、スポーツベッティング（賭け事）に起因する罵倒が挙げられる。また、日本の高い識字率とスマホ普及率が、ネット上での過激な発言を助長している側面も無視できない。

事例分析では、4つのケースを検証した。「ワタガシペア」として知られる渡辺勇大・東野有紗ペアは、誹謗中傷に対しても互いを庇い合い、深い信頼関係を公に示したことで、国民的な支持を得た。一方、渡辺が田口真彩と新ペアを結成した際には、「実力ではなく外見で選んだ」といった偏見に基づく中傷が発生した。また、桃田賢斗の復帰劇では、不祥事後の真摯な謝罪と地道な努力の姿勢が、ファンの視点を「勝利への期待」から「再挑戦への支持」へと変容させた。対照的に、緑川大輝・齋藤夏ペアの解消では、解消プロセスにおけるコミュニケーション不足や不透明さが露呈し、選手への批判が集中した。

これらの事例から導き出される「応援されるアスリート」の要諦は、次の3点に集約される。第一に「努力の可視化」である。試合の結果だけでなく、そこに至る練習やリハビリの過程を発信することで、ファンはプロセスに価値を見出し、共感を深める。第二に「結果への姿勢」だ。勝利に驕らず、敗北時にも他責をせず、周囲への感謝を誠実に言語化する態度が信頼を構築する。第三に「ストーリー性」である。挫折や葛藤を含めた競技人生の物語をファンと共有することで、応援は単なる勝敗の評価を超え、選手個人の生き方に対する支持へと昇華される。

結論として、SNS 時代のアスリートは単なる競技者ではなく、社会的存在としての振る舞いが厳しく問われている。SNS は選手を追い詰める凶器になり得るが、誠実な発信と透明性の高い対話を維持することで、結果に左右されない強固なファンベースを築く武器にもなる。勝利のみならず、その過程を通じて人々に価値を届ける姿勢こそが、現代のアスリートに求められる理想像である。

・目次

1.はじめに

2.誹謗中傷とは

2-1 現代の誹謗中傷の問題

2-2 批判と誹謗中傷

3.SNS の利用

3-1 SNS の利用実態

3-2 SNS ごとの利用者の違い

3-3 アスリートの SNS 利用実態

4.実際に起きた事例

4-1 渡辺、東野ペア解散

4-2 渡辺、田口ペア結成

4-3 桃田賢斗復帰

4-4 緑川、齋藤ペア解散

5.考察

5-1 事例からわかる誹謗中傷の傾向や心理

5-2 応援されるアスリートとは

6.おわりに